



11.もしも火災が起きたら

火災から身を守るために、気をつけることをしっかりと学ぼう。

火災は時と場所を選びません。家にいる時、学校にいる時、旅行先、朝から夜中まで、いつどこで起きるかわかりません。
火災から自分の命を守るために、自分に何ができるか考え、火災への「備え」をしましょう。

もしも火災が起きたら

発見



火災を見つけたら、すぐに大きな声でさけび、周りの人に知らせましょう。
また、建物の中では廊下などにある赤いランプが点いている「非常ベル」を押して、知らせましょう。



通報

電話で119番（消防）に通報しましょう

119番の通報は、「火事」か「救急車」かをはっきり言い、あわてずに以下のことを伝えることが大切です。

- ▶ 『119番消防です。火事ですか？ 救急車ですか？』
「火事です。」（火事か救急車かをはっきり言う。）◀
- ▶ 『場所はどこですか？』
「札幌市〇〇区〇〇条〇〇丁目〇番〇号〇〇の家です。」◀
- ▶ 『何が燃えていますか？』
「ストーブの火がカーテンに燃え移っています。」◀
- ▶ 『あなたの名前と電話番号を教えてください。』
「消防太郎です。電話番号は〇〇〇-〇〇〇〇です。」◀

あなた

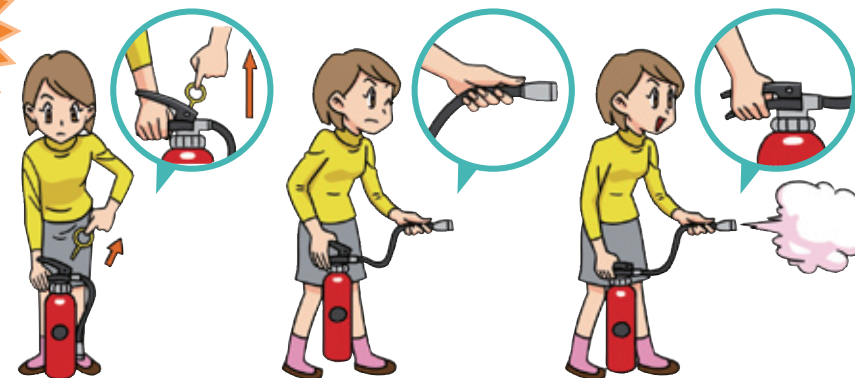
指令管制員

備える

火災が起きるとびっくりしてしまい、自分の住所や電話番号が分からなくなることがあります。
電話の前に住所や電話番号を書いたメモを貼っておきましょう。

消火

素早い消火が、火災の被害を小さくします。



- ①安全ピン（黄色）を上へ抜きます。
- ②ホースの先を火元に向けます。
- ③レバーを握ります。

備える

消火器の使い方を覚えておきましょう。
また、日頃から消火器の置いてある場所を確認しよう。

避難

避難の時は、

「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」

姿勢をできるだけ低くし、タオルやハンカチを口に当てながら煙を吸わないように避難します。避難する時は、安全で避難しやすい出口を選びましょう。



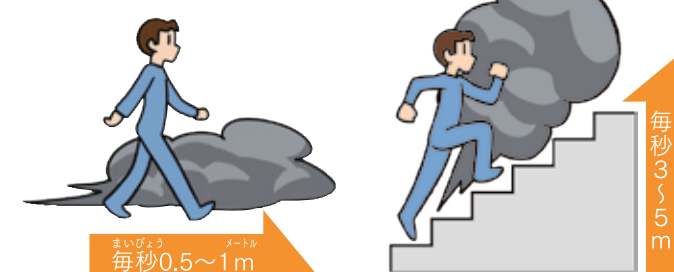
- 一度避難したら引き返さない。
- 火災の時は、エレベーターを使わず、階段で避難する。

備える

日頃から、もしもの時のために、建物の中の避難経路を確認するようにしましょう。

煙の性質

煙は天井などに一時的にたまり、そこから徐々に下に降ります。有毒ガスを含んでいるため煙を吸うと体が動かなくなったり、死につながることもあり大変危険です。煙の進む速さは、上昇する時で毎秒3～5m（かけ足の速さ）、横への広がり毎秒0.5～1m（歩く速さ）です。



応急手当て《豆知識》

●出血した時は

傷口が土などで汚れているときは、すみやかに水道水などきれいな流水で洗います。出血が止まらないときは、傷口にガーゼやハンカチ、タオルなどをあてて、その上から直接圧迫して止血を試みてください。



●やけどをした時は

すぐに冷やすことで悪化を防ぐことができます。服の上からでもよいので、すみやかに水道の流水で10～20分程度冷やしてください。水ぶくれはつぶれないようにそっと冷却し、触らないようにしてください。

